

学校経営 ビジョン	重点目標	観 点	具体的手立て及び評価の視点	学校評価		関係者 評価	○成果 ●課題 ★対策
				職員	保護者	評議員	
「やる気」 基礎学力の 確実な定着と 学力向上	1 学習指導の工夫・改善	1 授業改善	着実に学力が身に付くよう、授業研究会や研修の成果を生かし、授業の工夫・改善に努めている。	2.8	3.8	3.8	○ 校内外のテスト成績結果を分析し、個別指導を通して苦手科目の克服を図ることができた。 ● 研究授業を通して、児童生徒の力を効果的より高めることのできる授業づくりを行う必要がある。 ★ 少人数の特性を生かし、それぞれの学習状況に応じた指導法等の工夫改善を行っていく。
		2 諸テスト結果の分析と活用	定期テストや対外テスト等の結果をもとに、一人一人の学習状況を把握し、授業に活用している。				
	2 少人数指導の充実と家庭学習の習慣化	3 乗り入れ授業	小中の乗り入れ授業により複式解消を図るとともに、小中で連携し、系統的な指導を行っている。	3.2	3.6	3.7	○ 乗り入れ授業を通して、小中の教職員が連携し、一貫した指導を行うことができた。 ○ 放課後に教室を開放し、復習等ができる時間を確保することで、自ら学ぶ習慣化を図ることができた。 ● 課題提出率が低い児童生徒が見られる。 ★ 授業とのつながりや効果が実感できるような課題を精選して提出するなどの工夫を行う。
		4 家庭学習の充実	家庭と連携し、児童生徒の学力向上につながる家庭学習の推進に努めている。				
		5 宿題の工夫	授業と効果的に連動させた家庭学習を課し、教師がその学習状況や成果を見届けている。				
	3 学習環境の充実と読書活動の推進	6 学習形態の工夫	目的に応じた学習形態や学習活動を工夫して、児童生徒の学びが深まるようにしている。	3.0	3.6	3.5	○ デジタル教科書や、プレゼンテーションソフトを利用して学習の視覚化を図ることができた。 ● ICTを有効に活用した授業を工夫する必要がある。 ★ ICTを効果的に活用し、児童生徒の主体的な学びを促したり、理解力・表現力等を高めていく。
		7 ICTの活用	ICTを活用して、児童生徒の意欲を高めたり、理解や思考を深めたりしている。				
		8 特別支援教育の充実	生活や学習上の困難を改善又は克服するために必要な個に応じた支援を行っている。				
「本気」 豊かな生活習慣の 定着と 心身の育成	4 基本的な生活習慣の確立	9 あたりまえのこゝろ3か条の徹底	「早寝・早起き・朝ご飯」など、生活規律の必要性を理解させ、規則正しい生活を実践させている。	3.0	3.7	4.0	○ 欠席が少なく、元気に登校することができた。 ● 週末に生活リズムが乱れる児童生徒が見られた。 ★ 保護者と連携し、安定した生活リズムづくりに努める。
		10 キャリア教育の充実	個々のキャリア発達のために必要な意欲や態度・能力を育てている。				
	5 将来について考え、温かい人間関係を築く	11 道徳教育の充実	児童生徒の道徳性を育む教育を、道徳の時間を中核としながら全教育活動を通して取り組んでいる。	2.8	3.7	3.2	○ いじめ等人権にかかわる大きな問題は発生せず、協力的な態度で学校生活を送ることができた。 ● 将来の目標を見据えて学習に取り組む意欲が低い。 ★ 将来を見据え、その実現に向け、意欲的に学ぶ態度を培う視点からのキャリア教育の充実を重視する。
		12 人権意識の高揚	発達段階に応じて人権の大切さを理解させ、互いの人権を尊重する社会を築けるよう指導している。				
	6 体験的学習と社会的活動の推進	13 さいと学の充実	西都市の教育資源を活用し、市の未来や自分の生き方について考える機会を設定している。	3.4	3.8	3.5	○ 総合的な学習の時間を計画的に実践し、伝統継承や自然体験活動に積極的に取り組むことができた。 ○ 運動会や文化祭等において、地域の伝統文化を積極的に取り入れることで、内容の充実を図ることができた。 ● 体験活動の取組が受け身な児童生徒も見られた。 ★ 体験活動の意義を理解させるとともに、児童生徒を計画段階からかかわらせるなどの指導を重視する。
		14 各種行事の充実	自然体験やボランティア活動を通して、学校行事とのつながりをもたせ、効果を得ようとしている。				
15 地域行事への積極的参加・協力		伝統継承・自然体験活動など地域との交流を通して、児童生徒の豊かな心を育てている。					
「元気」 健康・安全 教育の推進と 体力の向上	7 生活のリズムの確立	16 生活記録や連絡帳の活用	児童生徒の日常生活を把握してコミュニケーションを図るとともに、表現力を身に付けさせている。	3.3	3.7	3.7	○ 地域農産物のよさを知る地域人材を招いた授業等により、食への関心や感謝の念を高めることができた。 ○ 検温・マスク着用・手指の消毒など、感染症予防対策は概ね実践することができた。 ● 腹痛や頭痛など慢性的な体調不良を訴える児童生徒がやや多かった。 ★ 生活記録や、各種行事の感想・反省の振り返りを通して、キャリア発達に役立てる。
		17 健康観察の充実	日常的に児童生徒の健康状態を観察し、心身の健康状態を把握し、適切な対応を行っている。				
		18 食育の充実	食べ物に対する感謝の心を健康に留意して食べることの大切さを学ばせている。				
	8 食に関する指導の充実と心身の健康維持	19 給食指導の充実	望ましい食習慣を身に付けさせ、明るい社交性を養い、心身の健全な育成に努めている。	3.0	3.7	3.2	○ 学校栄養士による授業や家庭科、給食指導を通して、栄養バランスを意識させることができた。 ○ 部活動に取り組む姿勢を重視することや地域指導者の協力もあり、県大会出場を果たすことができた。 ● 教育相談で把握した悩みや困り感が完全に解消できなかった場合もあった。 ★ 困り感等に対して、解決につながるより一歩踏み込んだ指導や助言、保護者との連携が必要である。
		20 部活動の充実	生徒の自主的、自発的な参加を促し、教育課程との関連を図り、効率的・効果的に取り組んでいる。				
		21 教育相談の充実	対人関係や、学習・生活・進路等に関する相談を通して、悩みや困り感の解決を図っている。				
9 安全教育の充実	22 避難訓練の実施	火災・台風・地震を想定し、児童生徒が安全に避難できるようにするための訓練を実施している。	3.2	3.8	3.2	○ 防災訓練を定期的に行うことで、教職員と児童生徒の危機管理意識が高まった。 ○ 学校施設の老朽箇所への補強や、PTAの協力による校舎敷地内の草刈りなど、環境保全を行うことができた。 ● 排水溝や防犯等整備が不十分な所もある。 ★ 市や地域と連携して、さらに改善に努める。	
	23 学校環境の整備	学習・生活環境を整備し、児童生徒が安全で落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようにしている。					
	24 防災教育の充実	防災意識を向上させ、様々な危険から児童生徒が安全を確保して行動できるように指導している。					
「開かれた学校」 小中一貫 教育の推進と 家庭・地域との 連携	10 教師の指導力向上	25 教育課程の工夫	施設一体型の特色を生かし、学習指導や生徒指導に小中学校が連携し、教育活動を充実させている。	3.3	3.8	3.8	○ 地域を生かした運動会や文化祭、小中合同の行事、相互乗り入れ授業など、特色ある学校づくりに努めた。 ● 大学との連携においては、指導をより効果的に授業改善に生かしていく必要がある。 ★ 大学との連携においては、改善を図りたいポイントを焦点化し、授業改善の推進に役立てていく。
		26 校内研修の充実	小中の共通理解、共同実践が推進され、相互の連携や協力体制の確立が図られている。				
	11 学校教育活動の情報発信	27 学年・学校便りの発行	教育方針や課題、教育活動の情報を公開し、地域・保護者との連携のために役立てている。	3.5	3.9	3.2	○ HPを毎日更新したり、学校便りを毎月発行することで、学校の様子を広く発信することができた。 ● 地域の人材や行事の効果的な活用の在り方について、さらにその充実が図れるよう必要がある。 ★ 地域や保護者、東米良創生会との連携を図り、さらに地域の教育力を生かす学校運営に努める。
		28 HP更新	保護者・地域と連携を図るために、日々の児童生徒の様子などを効果的に発信している。				
		29 スクールコミュニティーの充実	学校と地域・保護者が連携して学校の運営に取り組む、地域とともにある学校の実現に努めている。				
	12 山村留学実行委員会との連携・協力	30 各種行事への協力	自然体験や伝統文化体験などの行事において、地域の教育力を生かした教育活動が推進されている。	3.5	3.9	3.5	○ 山村留学の広報活動、一日体験入学、面接など一連の活動を円滑に行うことができた。 ● 児童生徒の通信機器の取扱と、小遣い等を含む金銭管理について、保護者間で共通理解を図る必要がある。 ★ 里親及び地域の実親と連携を図りながら、児童生徒の実態に応じた指導を行っていく。
31 留学生受け入れに係る連携推進		学校・山村留学実行委員会・里親・実親との連携が図られ、留学生受け入れが円滑に行われている。					
13 地域学校協働活動の推進	32 家庭や地域との連携による学校支援の充実	学校と地域と学校が目標を共有し、双方向で連携・協働し活動している。	3.3	3.8	3.0	○ 地域伝承芸能の練習や農業体験学習などを一部を課外活動にすることで、講師が参加しやすくなった。 ● 地区のインターネット環境の充実に伴った児童生徒への指導が必要である。 ★ 地域及び保護者と連携を図りながら、児童生徒の情報モラルを育成する必要がある。	
	33 児童生徒の健全育成、家庭教育の充実	児童生徒の健全な育成のために学校と里親・実親とが連携し家庭教育の充実を図っている。					